

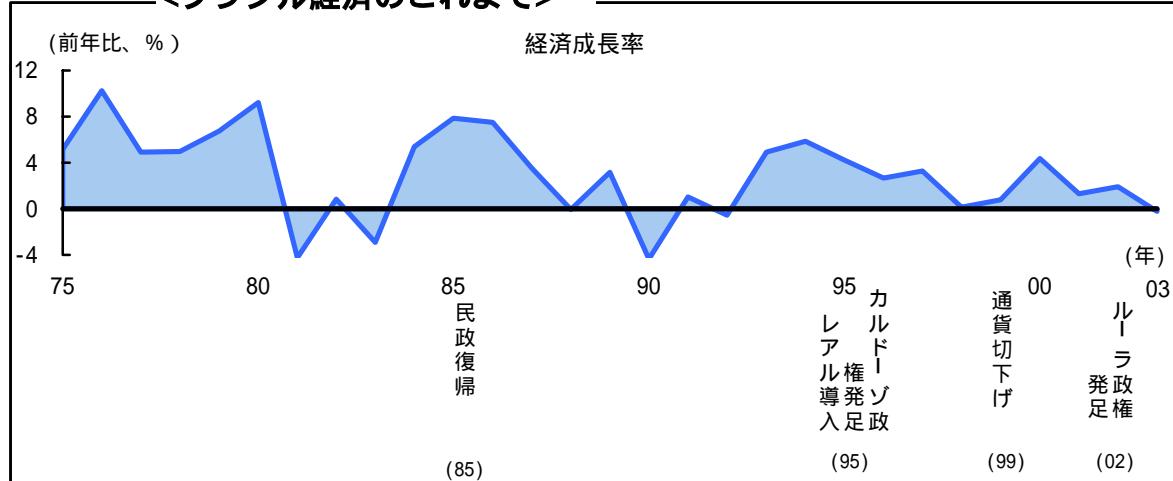
21 ブラジル

Federative Republic of Brazil

<2003年>

人口	1億7,687万人 (日本の約1.4倍)	財政会計年度	1月～12月
一人当たり G D P	2,789 ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(G D P 構成比)	1次産業 9.6 % 2次産業 36.6 % 3次産業 53.7 %	通貨	レアル 1米ドル=3.077レアル
		面積	851.2万km ² (日本の約22.5倍)

<ブラジル経済のこれまで>



ブラジルの主要経済指標

		92～01年	2002年	2003年	2004年			
					中央銀行	O E C D	I M F	民間機関
実質 G D P	前年比%	2.7	1.9	0.2	3.5	3.0	3.5	実質 G D P
鉱工業生産	同上	2.4	2.4	0.3	-	-	-	平均 3.7
消費者物価	同上	506.6	8.5	14.7	6.0	7.0	5.9	最大 4.3
失業率	%	6.1	11.7	12.3	-	-	-	最小 2.9
経常収支	億米ドル	174.9	77.2	40.5	40.0	4.9	24.1	(25社)
(G D P 比)	%	(2.6)	(1.7)	(0.8)	-	(1.0)	(0.4)	
財政収支	億米ドル	49.9	33.4	9.7	-	-	-	
(G D P 比, 年度)	%	(0.8)	(0.7)	(0.2)	(4.3)	-	-	
政府債務残高	億米ドル	1,526	1,940	1,900	-	-	-	
(G D P 比, 年度末)	%	(20.2)	(35.7)	(37.2)	-	-	-	

(備考) 1. ブラジル中央銀行、ブラジル地理院、I M F “ International Financial Statistics”、I M F の見通しは “World Economic Outlook” (2004年4月)、O E C D の見通しは “Economic Outlook No.74” (2003年11月)。

2. 失業率は、2002年から対象が15歳以上から10歳以上に変更となっているため、それ以前と接続しない。

<2003～2004年の経済>

2003年の経済成長率は0.2%減とマイナス成長となった。これは、インフレ抑制とプライマリーブラジルが優先され、金融引き締め政策と緊縮財政政策がとられたためである。しかし、インフレ率低下に伴い金融緩和政策がとられたことなどにより、2003年後半から回復傾向にある。

2004年は、この回復傾向が続き、3～4%程度の経済成長が見込まれている(中央銀行見通し3.5%、I M F見通し3.5%、民間機関25社の平均3.7%)。これは、インフレ率が安定するなかで金融緩和政策が続き、消費が刺激されることによる。ただし、失業率は、依然高水準になり、消費に悪影響を及ぼすことなどが懸念される。